

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

13 年度中信安全登山研究会

中信地区の高校で展開される今年度の夏の登山を検討する標記会議が本日開催された。すでに何度か紹介していることではあるが、改めてこの会のことを紹介したい。

長野県の中信地区は北アルプスのお膝元、登山をするのにこれほど恵まれた場所はない。そんな環境も相まって山岳部の活動は古くからおこなわれてきた。そんな中、「中信高校安全教育研究会」は、1954（昭和 29）年 12 月 29 日に起きた松本県ヶ丘高校山岳部の穂高岳岳沢での雪崩事故を契機に、二度とこのような悲惨な事故を起こしてはならないと、翌 1955（昭和 30）年松本深志高校の平林圭介校長が山岳遭難事故防止を主とする委員会の設立を提唱し、その実現をみた。現在では「中信安全登山研究会」と呼びならわされている会議はこうして始まった。このことは、昨年度 36 号を発行した中信高校山岳部年報の第 6 号（1982 年発行）の巻頭言として、長野県高体連登山部の産みの親ともいふべき今は亡き丸山彰先生が寄せた一文に書かれている。以来、夏・冬に会議を定期的に開催し、高校山岳部や学校登山の検討をしてきた。同じころ高体連登山専門部も創設され、両者はタイアップしながら安全登山に寄与して来た。ここで、重要なことはこの会が学校の責任者である学校長が提唱し、事故を後ろ向きにとらえるのではなく、むしろそこから学ぶことを通して、安全登山を積極的に展開することが安全教育につながるという発想に立って登山を禁止しなかったことにある。

以来 60 年、中信地区にはそういった誇るべき伝統が流れている。この間、深志高校の西穂落雷事故（1969 年）で 11 名が亡くなり、常念で行われた高体連登山大会閉会式後の死亡事故（1983 年）、山岳総合センターの講習会での死亡事故（1989 年）と 13 名の尊い命を失っている。自然が相手である以上、リスクを 0 とすることはできないし、これらの事故にはもちろん原因がある。しかし、我々は高校の教員として最大限の安全対策を講じた上で、生徒に信州の素晴らしい自然を楽しむ術を教えてあげたい。その意味で、単一の高校の山岳部の登山はもとより、大北地区の高校で今なお続く伝統的な学校登山を、第三者である複数の目で検討するというこの会の意味は大きな意味がある。

さて、前置きが長くなったが、今年の会議には事務局大町北今滝さん、大町矢口さん、海川さん、深志西牧さん、県ヶ丘松田さん、そして池工大西の 6 名が出席した。最初は大町高と大町北高の学校登山の検討が行われた。大町は山岳部 OB の協力を仰ぎながら全 9 コースを設定し、全校登山を実施する。かつては多くの学校で行われていた集団登山であるが、頑ななまでに全校登山を続ける大町高校の登山は、全国的にも稀有なものだと思うが、まさに朝な夕なに北アルプスを眺めるシチュエーションあつてのものだ。かつてに比べれば若干登る山は精選されたが、表銀座縦走 2 泊 3 日槍ヶ岳コースが今も健在であるのは、嬉しいことだ。一方の大町北は、一年生の有志を中心に今年は蝶ヶ岳で行われるとのことだった。

山岳部の活動は以下に表にしてみた。今年はすべての学校が槍穂高のいずれかに登る計画になっている。昨日あたりから、世は富士山富士山の大合唱が聞こえるが、長野県

しかも中信地区の高校にとっては、やはりホームグラウンドは槍穂高だ。会議ではそれぞれの計画が提案された後、注意すべき点、今年の雪の様子などの情報交換が行われた。最後にここ数年の傾向として、集中豪雨や落雷などへの警戒が必要であるとの確認や、人があまり入っていない山域（特に針ノ木）では熊の出没が目立つので注意が必要などとの情報が交換された。

学校名	日程	山域
大町	8/4～7	上高地から涸沢 定着 奥穂高
大町北	8/上旬	現在検討中
池工	7/14～15	扇沢～針ノ木～岩小屋沢～爺ヶ岳～扇沢
	8/13～16	上高地涸沢 定着 奥穂高・北穂高・黄金平
県ヶ丘	7/20～21	猿倉～大雪溪～白馬岳～鑓温泉～猿倉
	7/31～8/6	インターハイ（くじゅう山系）
	8/9～12	裏銀座縦走（烏帽子～三俣蓮華～槍ヶ岳～上高地）
深志	7/28	扇沢～針ノ木～扇沢（日帰り）
	7/31～8/1	西穂高慰霊登山（上高地～西穂高岳～上高地）
	8/17～19	表銀座縦走（燕～槍ヶ岳～上高地）

続いて冬の検討会を12月2日に行うこと、技術向上と交流を主眼とした登山研修交流会を木曾地区において10月25-26日に行うことを決定。最後に単一の高校での山行の際にも可能な限り他校に声をかけ、合同登山を積極的に行っていくことや、昨年来懸案となっている旅費問題についての各校の様子の交流をして会議を終了した。中信の高校においては、旅費は従来の通り無条件で食卓費が支給されている点、ガスや電池代、入浴代についても今まで通り、またトイレの使用料なども支払われている例などが確認された。

国立登山研修所——GPSを使った読図指導者の養成

6月22日から24日にかけて、国立登山研修所の講師研修会が行われ、不肖小生も参加させていただいた。ここ数年僕も参加している登山研修所の安全登山普及指導者中央研修会の読図プランニングコースにGPSを扱うコースを入れるにあたって講師の養成をすべく設定された研修会だった。講師は静岡大学の村越真先生。ゴルジュ帯でのGPSの有効性の検証や、コンパスと紙地図との併用、ナビゲーションなどいくつかの実証をして、実際に研修会を行うにあたってのカリキュラムを構成した。研修会設定の趣旨は単にGPSのスキルの習得を目指すのではなく、GPSを使った積極的な読図やナビゲーションを安全登山に役立てることのできる指導者を養成するとい



うところにある。今回の成果をもとに、今週末に行われる研修会で一部具体的・実践的に検証した上で、GPSを使った読図指導者を育てる研修会として次回以降位置づけていくことになる。今後に乞うご期待といったところだが、それはそれとして、研修は、右の写真にあるようになかなか面白かった。久しぶりに美しい沢で沢登りを満喫！

